

2019 年度研究成果公開促進費（学術講演会等） 成果報告書

【報告者所属・氏名】

文学部英文学科准教授 深瀬有希子

【タイトル】

多民族研究学会共催

①シンポジウム ハーレム・ルネサンスの地平—The Arts of Modern Black Bodies

②特別講演 Worlds of Color: Or, W.E.B. DuBois's International Vision of the 1920s

【講演者所属・氏名】

① 川島浩平（早稲田大学教授）、田中 正之（武蔵野美術大学教授）、黒崎真（神田外語大学教授）、深瀬有希子（実践女子大学准教授）

② Dr. Nahum Chandler（Professor at The School of Humanities of the University of California, Irvine）

【開催日時・場所・来場者数】

日時： 2019 年 7 月 20 日（土）13 時 15 分～17 時 45 分

場所：渋谷キャンパス 702 講義室 来場者数： 65 名

【学術的な成果】

研究テーマ「ハーレム・ルネサンス」については、国内では 2018 年度にアメリカ文学会東京支部、2019 年度にアメリカ文学会中部支部において、シンポジウムが開催されてきた（前者については、深瀬が企画を担った）。本シンポジウムはそうした動向を踏まえつつ、以下の特殊性を示した。過去二つのシンポジウムが、伝統的なハーレム・ルネサンスの研究をうけて、文学および音楽を分析対象としていたのに対して、本シンポジウムは、新しい研究の流れとして、視覚芸術・宗教・スポーツ・メディアという大衆文化研究の要素も組み入れた、学際的内容を特徴とした。また、チャンドラー博士の特別講演は、ご本人の個人的事情により、渋谷キャンパスとカリフォルニアをスカイプでつなぎ、中断することなく予定通りの 60 分を費やして行った。この方法は、本学渋谷キャンパスの設備の充実度の高さを対外的に示すのみならず、グローバル時代の国際学会のあり方を具体的に示した点において、参加者より高い評価を受けた。

【広報面での成果】

慶應義塾大学、早稲田大学、明治大学、青山学院大学、日本女子大学、専修大学、明治学院大学、大妻女子大学、上智大学、横浜市立大学、筑波大学、神田外語大学、武蔵野美術大学、東京女子大学、フェリス学院大学、立命館大学など多くの大学に宣伝を行った。期待していた 100 名の参加には及ばなかったものの、多民族研究学会主催の全国大会としては多い人数を集客することができた。その中には非会員の研究者や大学院生、また出版社の方も含まれていた。

【今後の課題・展開】

2020 年度から 2021 年度をめどに、深瀬が編集を担う共著『ハーレム・ルネサンス』を、明石書店から出版する予定である。